

基調講演

「学びをベースとした東京都市大学の
キャリア支援について」

東京都市大学

皆川 勝

住田 暁弘

学びをベースとした東京都市大学の キャリア支援について

東京都市大学
副学長(教育担当)・教育開発機構長
皆川 勝

東京都市大学 学生支援部 部長
JASSO キャリア教育・就職支援協力者
住田 暁弘



東京都市大学の 建学の精神・教育理念

武蔵高等工科学校
より充実した教育を求める**学生の声**から発足
建学の精神・・・「公正・自由・自治」

教育理念

- ボーダーを超えて、
- **学生と教職員が共に考え、学び、行動することで**
- 社会に貢献できる人材を育てる。



本来の教育改革のベースは、中長期計画(アクションプラン2030)

<ビジョン> 80年を超える専門的実践教育の伝統に加えて、「都市」をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の大学を目指す。

教育の質保証

キャンパス教育環境向上

ブランド力向上

大学運営向上

輩出する人材像：「自ら学び、社会の発展に貢献する、責任感と実践力を持つ人材」

教育の質保証プロジェクト

施策・事業案	2020年度目標	2030年度目標
1. 都市大教育理念に則った教育プログラムの確立		
①明確な教育目標の設定 ②教育目標に応じたカリキュラムの再構築 ③新しい教育制度の導入 ④主体的な学修を促す教育方法の導入 ⑤自校教育の導入	<input type="checkbox"/> 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムが構築できている	■国際標準の教育プログラムが確立されている ■また、それが展開できている
2. 教育の質を保証するためのマネジメントシステムの構築		
①FD活動による教育システムなどの開発 ②教育プログラムの実効性の確認 ③教員相互協力による教育能力向上 ④マネジメントシステムの第三者評価	<input type="checkbox"/> 教育の質保証が実証できるマネジメントシステムが構築できている	■内外問わず高い評価を得られるマネジメントシステムが定着している
3. グローバル化に対応した人材の育成		
①学生のグローバル・リレーションシップ育成 ②実践的英語教育の導入 ③学部学科単位による海外留学の推進 ④英語による授業の実施 ⑤教職員のグローバル化教育	<input type="checkbox"/> グローバル人材育成のためのシステムが整備され、確立できている KPI: 学生の海外学習経験者数年間200名以上	■国際社会で活躍できるスキルを身につけた人材が育成できている
4. 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成		
①体系的なカリキュラムの構築 ②学部・大学院の一貫教育の導入 ③国際会議発表の推進 ④産学連携/地域連携による共同研究の推進	<input type="checkbox"/> 研究レベル向上の為に大学院教育プログラムが確立できている	■大学院の研究レベルが国際社会で高い評価を受けている KPI: 博士号輩出、年間50名以上

2040年を見据えた高等教育

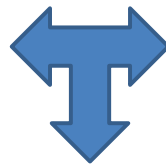
平成30年6月25日 中央教育審議会大学分科会将来構想部会資料より

- SDGs: 持続可能な開発のための目標
 - Society5.0: 幅広い知識, 新しいアイデア・構想を生む力
 - グローバル化: 多様性を受け入れる社会システム構築
- I. 学習者自身が主体的に学ぶ, 体系的なカリキュラム編成.
 - II. 教学マネジメントの確立と学修成果の可視化.
 - III. 文系理系の枠にとらわれない, 新しいリテラシーに対応した教育
 - IV. 多様な人的資源の活用.
 - V. 世代を超えた知識の共通基盤化と国際展開.
 - VI. 大学の多様な強みの強化 . 「強み」や「特色」の明確化.
 - VII. 大学間・産官学連携により全体で支える高等教育.



取り組みの背景

厳しい卒研指導
→出口での保証には
自信あり. 実績も.



社会的要請=真の実力
→4年間の教育システム・
評価・成果の完全可視化

学生の立場から、自身が自己理解を深め成長を実感できる教育基盤の必要性

高校 → 大学1~4年次 → 社会人
シームレスな接続に基づく長期視点の人材育成

社会の変革を
リードする人材



東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

輩出すべき人材の要件

育成したいと
考えていた人材像

企業・社会からの
人材要請

都市大卒業生
からの評価

- (1) やらないといけないことをやり続けて身につけた「**努力できる確かな自信**」を感じさせる
- (2) 最終成果につながるまで、**考え、行動し続ける**
- (3) 自分ができることや希望を臆せず正しくアピールし、**チーム貢献ポジションを自らつくる**ことができる
- (4) 得た知識やスキルを既存の枠組みで活用するだけでなく、**自分たちで新たな枠組みを作り上げようとする**
- (5) **国際的に通用する**

これまでも輩出してきた人材。これをより多数に！

AP事業の取り組みによって、都市大生に新たなカラーを加えていく！

35歳

都市大の目指す「人材像」とは？

社会変革のリーダー

役員

技術のリーダー

35歳

AP事業で考えてきた人材像

社会人

22歳/24歳

学部・大学院

18歳

幅広い視野

起業家精神

キャリアデザイン

語学

専門基礎

リーダーシップ

協調性

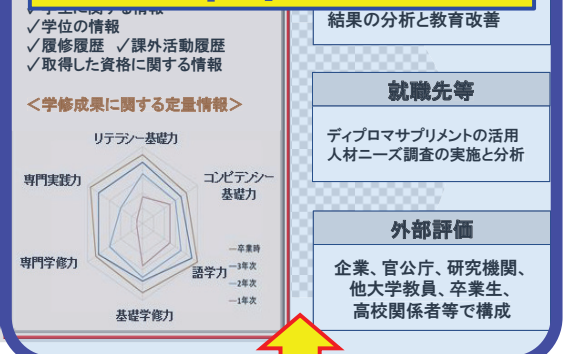
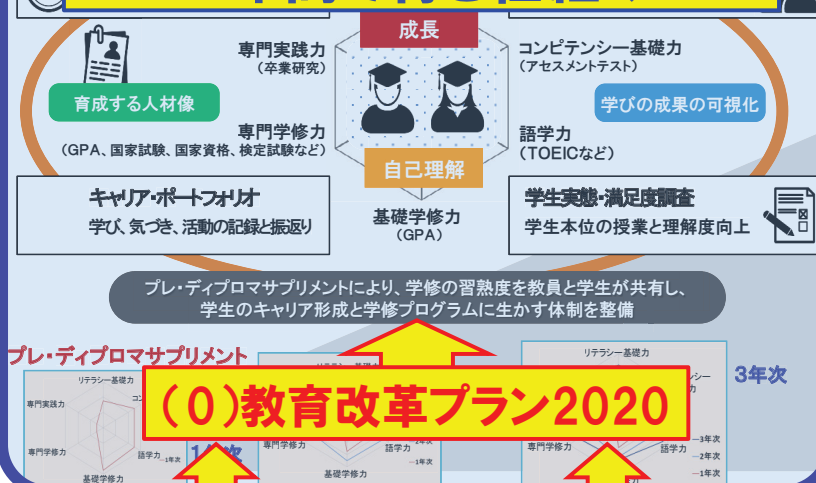
国際性

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

本学のAP事業全体像

社会に通用する学修成果を
4年間で育む仕組み

学修成果を
目に見える形で
社会に示すための
仕組み



(0) 教育改革プラン2020

(1) 初年次教育
プログラム

(2) 卒研評価の標準化
と科目評価への反映

(3) 学修プロセス・評価・
成果の見える化

卒業生追跡調査の実施率(調査回答者数/卒業生数)	未実施	20%	25%	30%
学生の成績評価(GPAの平均)	2.35	2.40	2.50	2.75

◆ ディプロマサブリメントの開発と活用を通じて、専門性の高い多様な学部で実践的に学ぶ学生と支援する教職員との連携体制を構築し、多くの大学に導入可能な連携モデルとして広く波及させることができる。

改革の要点

- I. 大学全体としてのポリシーの下での、学部学科教育プログラム展開.
- II. クォーター制, 科目のスリム化, CAP制, 学習時間の確保による, 学修成果の保証.
- III. ギャップイヤー, TAP・TUCPなど, グローバル展開への摩擦の少ない教育システムの確立.
- IV. 学習者が主体的に学ぶ体系的カリキュラムの構築
 - a) 全学共通科目としてのSD PBLの導入
 - b) 卒業研究のプロセス・評価の標準化・可視化
 - c) カリキュラム全体における評価の可視化
- V. 学修プロセス・評価・成果の見える化の完成へ

東京都市大学の教育目標

公正・誠実な人格と自己研鑽力をもち,

「都市」に集約されるような複合的課題に取り組めると共に,

多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで

持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する.

学習者中心の教育へ
本気で転換する！

社会を変革していく
リーダーを育成

全学ディプロマポリシー策定

(自ら学ぶ力)

主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。

(課題を探究する力)

「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。

(ボーダーを超える力)

多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。

(協働する力)

公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。

(実践する力)

人類文化と社会を理解し、基礎的ならびに専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。

学習者中心の教育へ 本気で転換する起点！

学習者中心の教育
ラーニングアウトカムズ
「学生は何を身につけたか」
「学生は何ができるか」

新たな
学部学科
DP策定へ

教育者中心の教育
「教員は何を、どのように教えるか」
「学生は何を学んだか」

現行の
学部学科DP

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

本学における 学士課程教育体系化の道程

改革の阻害要因

教員中心の学修・
教育システムへの信奉、
施策無力化への動き

学生の意識
主体性・自律性の欠如

推進する教職員の意識
アライ作りが目的化

育成する人材像設定
全学教育目標と人材像

全学教育DP
「学生は何ができるか」

全学DPに基づき
全学CP策定

関連する重要施策

アウトカムズの保証
CAP制, スリム化,
演習充実, クォーター制

全科目群で
アクティブラーニング

教育学修プロセスの
可視化・透明化

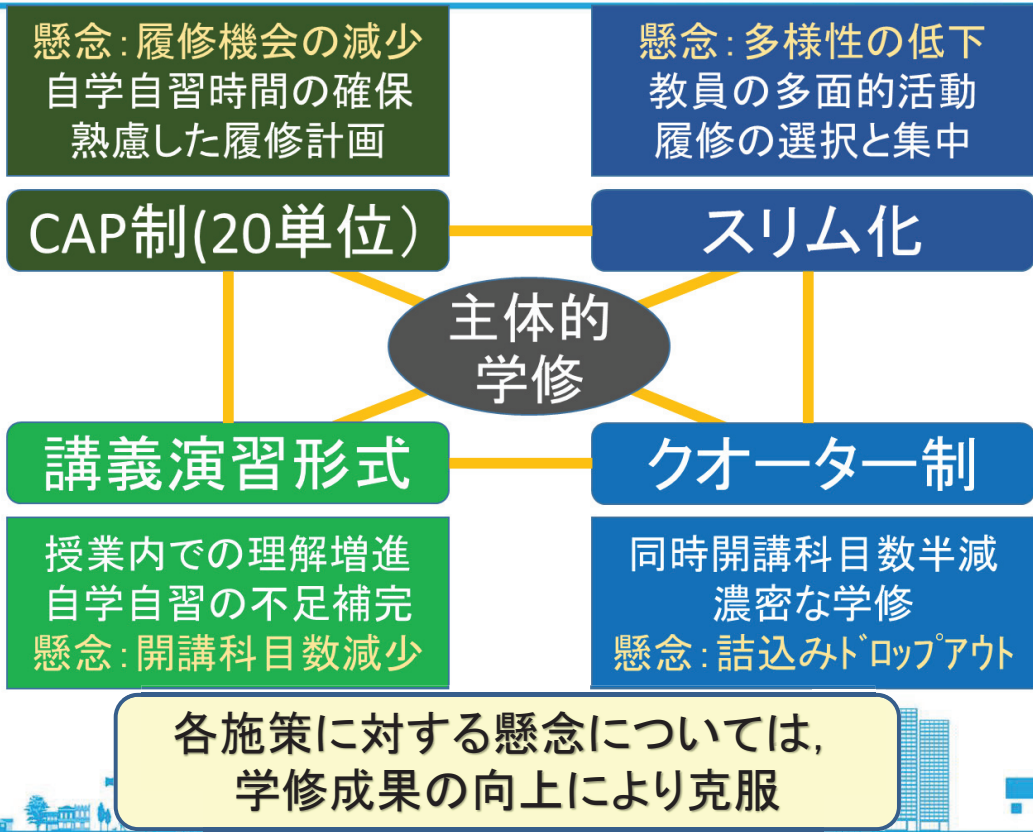
卒研評価の標準化
と可視化

全学共通PBL科目設計
全科目評価可視化

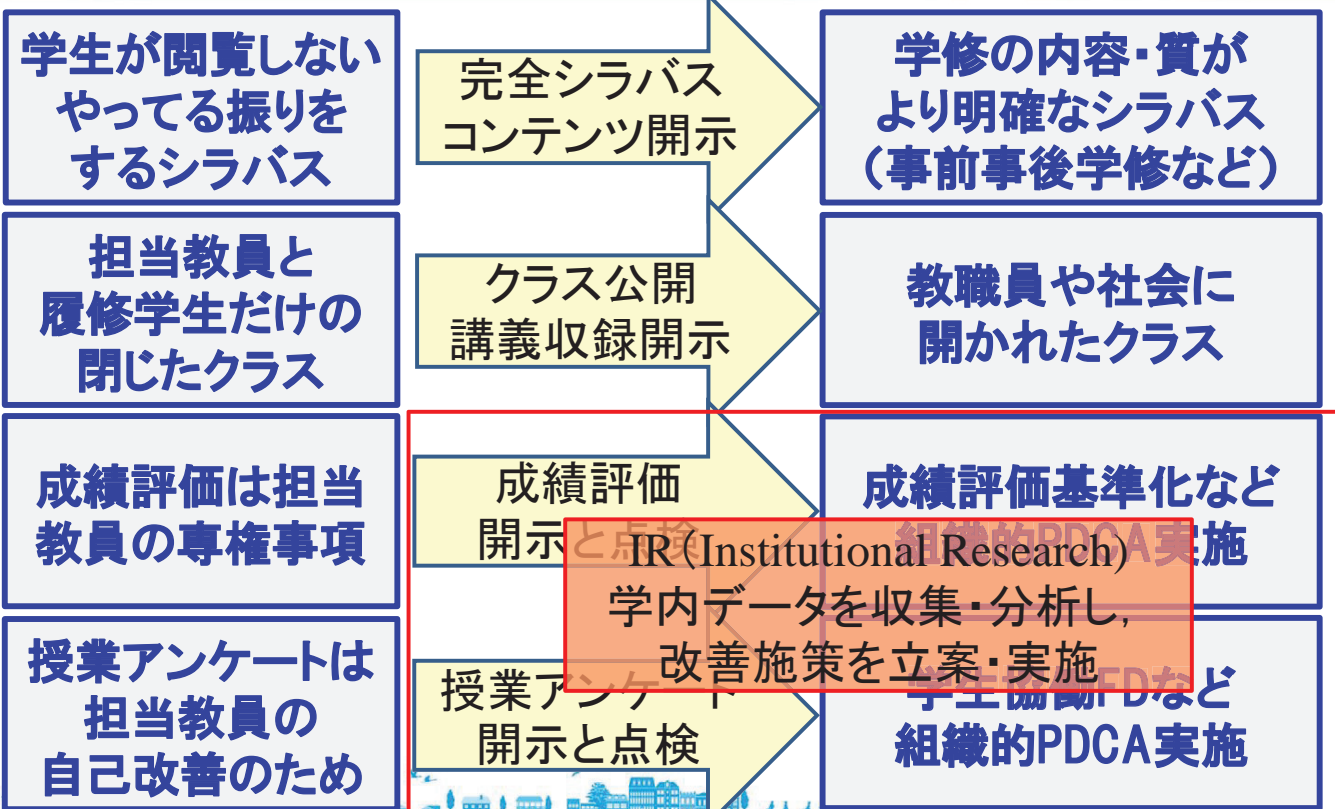
「心に学びの灯をつ
ける」導入教育

各学部学科のDP・CP, カリキュラム, DSの更新へ

東京都市大学 教育課程編成方針2020



学修成果・教育成果の可視化 —ボーダーを超えて学修教育を社会と共有—



SD PBLを核とした全学PBL教育

Basic Everyday English により、
ボーダーを超える
コミュニケーション

教養
科目

課題探求型の
アクティブラーニング(AL)
を全教養科目に導入

語学
科目

SD
PBL

専門
科目

行動戦略をアクティブラー
ニング(AL)で学ぶ
スポーツで英語に慣れる

体育
科目

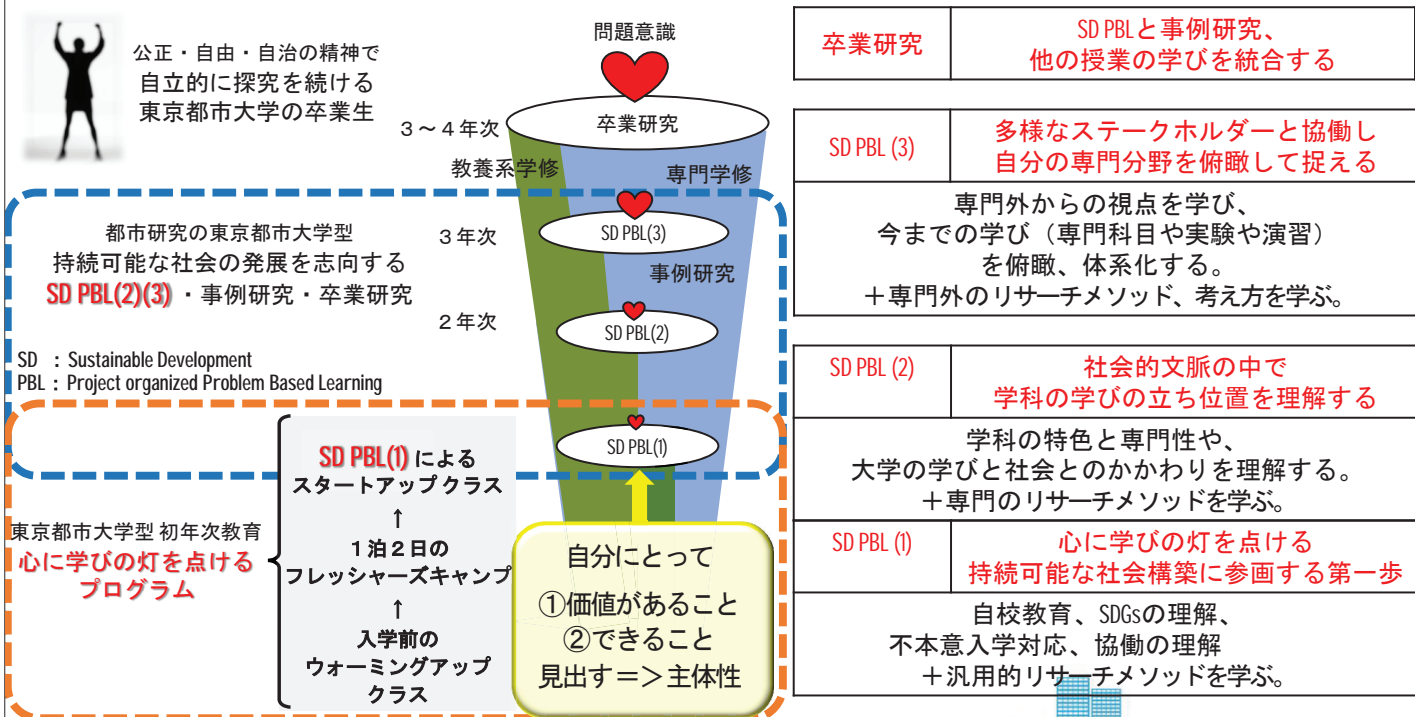
専門性を尊重しつつ
全学必修卒論・事例研
などにより深く広く探求

専門基
礎科目



東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

初年次教育をスタートに、 SD PBL(1)~(3)を修め、卒業研究へつなぐ



東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

SD PBLのルーブリック設計

～ 卒業レベルの学修到達目標からバックキャストで設定～

・ ルーブリックによる評価基準

学年科目 項目	1学年		2学年		3学年		4学年
	PBL(1)	既存科目a	PBL(2)	既存科目b	PBL(3)	事例研究	卒研
DPに即した学位認定の到達目標	主体的学修支援の仕組みづくりには、1学年から卒研まで連続的に学修到達目標を設定し明示すること、公正で適切な評価の方法、評価基準が不可欠						
	学修目標1 (e.g.理論)		1～30				
	学修目標2 (e.g.汎用能力)	1～10	11～20	21～30			
	学修目標3 (eg.高度研究スキル)						1～15 16～30
	学修目標4 (eg.チームワーク)	1～6		7～13		14～20	21～25 26～30
	学修目標5 (e.g.質問力)	1～4	5～8	9～12	13～16	17～20	21～25 26～30
⋮							

(例)レベル30が卒業認定レベルとすると

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

卒業研究ルーブリックの再整備

～ 標準ルーブリック策定の背景 ～

現行ルーブリックの状況

- ◇ 学科の実情に合った評価項目を学科ごとに設定 (状況は後述)
- ◇ ルーブリックの作成・運用に関する指針・知識なしに作成

+

全学ディプロマポリシー策定

- ◇ 大学として学生を育成する指針

標準ルーブリックと運用指針の策定

卒業研究が学修の集大成とするならば

- 全学DPが求める内容に卒業研究ルーブリックの評価項目が合致するはず
- 全学DPが求める能力をキーワードとして抽出し、標準ルーブリックと比較

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

卒業研究ルーブリックの再整備

～卒業研究の評価に必要な要素の検討～

一言で言えば **専門実践力**

↓
細分化

- ◇ 専門知識・技能(研究の土台)
- ◇ 研究力(課題解決力):
 - 課題設定能力
 - 分析力
 - 思考力
 - 判断力
- ◇ 成果の表現力・発信力:
 - 論文・成果物表現力
 - プレゼン表現力
- ◇ 研究過程で必要な態度:
 - 積極性・能動性
 - 協働性

卒業研究標準ルーブリックの提案

～ルーブリックの評価項目案と全学ディプロマポリシー～

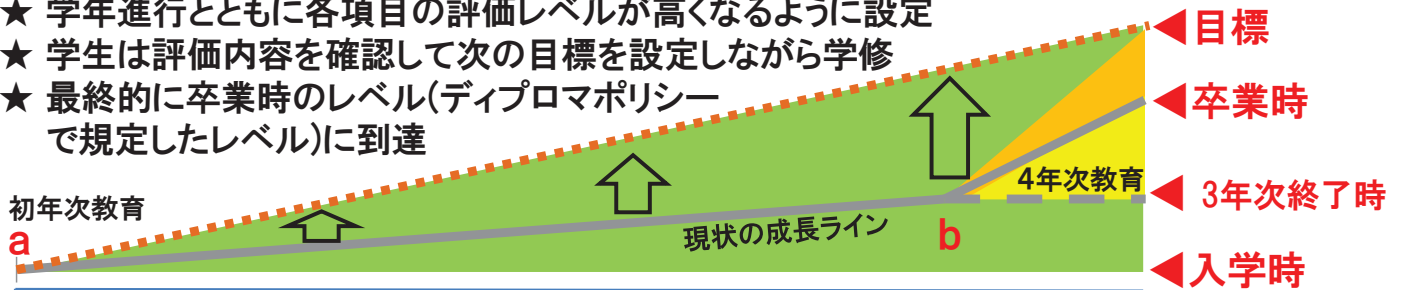
レディネス事前評価		キーワード	
研究の土台	専門知識・技能 研究に活かせるだけの知識・技能の修得度	専門知識, 技能, 知識・技能の適切な利用	
A. 過程の中で日常的に観察しフィードバック(形成的評価)していたことを統合した評価		キーワード	
研究過程で見られた能力(課題解決力)	課題設定力	テーマを深掘りする関心・意欲	問題点・背景の把握, 目的・課題の設定
	分析力	的確な情報の収集, 適切な分析(批判的思考力)	情報収集力, 情報分析力, 情報の適切な取捨選択と整理
	思考力	帰納・演繹させながら自ら解を導く思考力	思考力, 発想力, 問題解決能力, 独創性, 論理性, 一貫性
	判断力	論理の飛躍なく判断する力(妥当な結論づけ)	状況判断力, 適応力, 柔軟性
研究過程で見られた態度	積極性・能動性	研究成果を得るまでの主体的活動力、やり遂げる力	積極性, 能動性, 主体性, 自律性, 忍耐力
	協働性	関係者相互に気持ちよく協力・支援する姿勢・努力	コミュニケーション能力, 協調性, 適応性, 認容性, 公正, 誠実, 役割の理解
B. 成果(結果)・成果物の評価		キーワード	
成果・成果物の表現力	論文表現力	論文の要件を備えた表記・内容構成	文章構成, 書式・様式厳守, 文章表現, 実施内容の正確な伝達
	プレゼン表現力	伝えるべき内容の伝達力(目的・相手に合わせた対応力)	スライド・資料, 話し方, 内容の構成, 質問への対応, 実施内容の正確な伝達
全学ディプロマポリシーと関連キーワード			
ディプロマポリシー		関連キーワード	
1	主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。	主体性, 自律性, 積極性, 計画性, 克己心	
2	「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。	グローバルな視点, 積極性, 先見性, 独創性, 情報収集力, 情報分析力, 問題認識能力	
3	多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。	他者許容性, コミュニケーション能力, 柔軟性, グローバルな視点	
4	公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。	公正, 誠実, 協働性, 柔軟性, 忍耐力, 適応力, 勤勉さ, 実直さ, 適正な倫理観	
5	人類文化と社会を理解し、基礎的ならびに専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。	知識, 技能, 応用力, 実践力, 状況判断, 論理性	

➡ **両者が対応する関係**

統合的科目の全学年配置

～ 4年間にわたる継続的PBL教育と評価および学修管理 ～

- ★ 各年次にマイルストーン的に配置されたPBL科目を同じ評価項目で評価
- ★ 学年進行とともに各項目の評価レベルが高くなるように設定
- ★ 学生は評価内容を確認して次の目標を設定しながら学修
- ★ 最終的に卒業時のレベル(ディプロマポリシーで規定したレベル)に到達



1年次 (入学前を含む)		2年次		3年次		4年次
導入教育型 SD PBL (1)	PBL(1)で活用する 知識科目 PBL(1)で活用する 実技科目 汎用的 リサーチメソッド	問題認識型 SD PBL (2)	PBL(2)で活用する 知識科目 PBL(2)で活用する 実技科目 専門の リサーチメソッド	社会連携型 問題解決型 SD PBL (3) + 事例研究	PBL(3)で活用する 知識科目 事例研・PBLの 実技科目 専門以外の リサーチメソッド	卒研
専門科目群 基礎専門科目群 共通科目群 課外活動						

ディプロマ
ポリシーの
レベル充足
のための
到達レベル
見える化と
継続的学修

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

学年進行と各能力の継続的強化



東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

卒研ループリックの共通化と科目体系への反映(検討中)

レディネス事前評価			
研究の土台	専門知識・技能	研究に活かす	
A. 過程の中で日常的に観察しフィードバック(形成的評価)していたことを統合した評価			
研究過程で見られた能力(課題解決力)	課題設定力	テーマを深掘りする関心・意欲	キーワード 問題点・背景の把握、目的・課題の設定
	分析力	的確な情報の収集、適切な分析(批判的思考力)	情報収集力、情報分析力、情報の適切な取捨選択と整理
	思考力	帰納・演繹させながら自ら解を選ぶ思考力	思考力、発想力、問題解決能力、独創性、
	判断力	論理の飛躍な	
研究過程で見られた態度	積極性・能動性	研究成果を得る	
	協働性	関係者相互に気持ちよく協力・支援する姿勢・努力	コミュニケーション能力、協調性、適応性、忍容性、公正、誠実、役割の理解
B. 成果(結果)・成果物の評価			
成果・成果物の表現力	論文表現力	論文の要件を備えた表記・内容構成	キーワード 文章構成、書式・様式厳守、文章表現、実施内容の正確な伝達
	プレゼン表現力	伝えるべき内	
全学ディプロマポリシーと卒論に関連するキーワード			
ディプロマポリシー		関連キーワード	
1 主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。		主体性、自律性、積極性、計画性、克己心	
2 「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。		グローバルな視点、積極性、先見性、独創性、情報収集力、分析力、問題認識能力	
3 多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。		他者許容性、コミュニケーション能力、柔軟性、グローバル視点	
4 公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。		公正、誠実	
5 人類文化と社会を理解し、基礎的ならびに専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。		知識、技能	

卒研成果に対する自負

卒研評価成果の見える化

科目ごとの成果指標更新

ディプロマサプリメント更新



卒業時に発行するディプロマサプリメント

201810001

東京都市大学 TOKYO CITY UNIVERSITY DIPLOMA SUPPLEMENT ディプロマ・サプリメント

とうきょうたろう 東京 太郎

性別: 男
生年月日: 1997年11月3日
学籍番号: 1612000
学部: 工学部
学科: 機械システム工学科
学年: 4年生
入学年度: 2016年度

専門実力力 8.6
コンピテンシー基礎力 8.6
語学力 7.0
基礎学力 7.1
専門実力力 8.3
専門実力力 7.0

1 リテラシー基礎力
2 コンピテンシー基礎力
3 語学力
4 基礎学力
5 専門実力力

1. 定量情報
2. 定性的情報

20XX年3月19日
東京都市大学
学長 三木 千壽 印

学年	科目	評価	備考
2016	1	2016.5.1	2016.5.1
2017	2	2017.5.1	2017.5.1
2018	3	2018.5.1	2018.5.1
2019	4	2019.5.1	2019.5.1

1. 定量情報

学年	科目	評価	備考
2016	1	2016.5.1	2016.5.1
2017	2	2017.5.1	2017.5.1
2018	3	2018.5.1	2018.5.1
2019	4	2019.5.1	2019.5.1

2. 定性的情報

学年	科目	評価	備考
2016	1	2016.5.1	2016.5.1
2017	2	2017.5.1	2017.5.1
2018	3	2018.5.1	2018.5.1
2019	4	2019.5.1	2019.5.1

問題意識

「就職ができるだけでなく、世の中から求められている力を持った学生をより多く、社会に送り出すためには、**低学年(早期)からのガイド、サポート**が十分ではない。」



課題

1. 学生が自分で**出来たことを確認できる仕組みが必要**
2. **低学年のうちから学生がキャリアを開発するためのサポート体制が必要**
3. 学生が入学直後から**主体的に事柄に取り組む意識**を持てる機会の提供が必要

キャリア = ①経歴(客観的側面)
②仕事に対する自己概念(主観的側面)



「キャリア開発のフレーム」

① 自分を知る

客観的・主観的側面

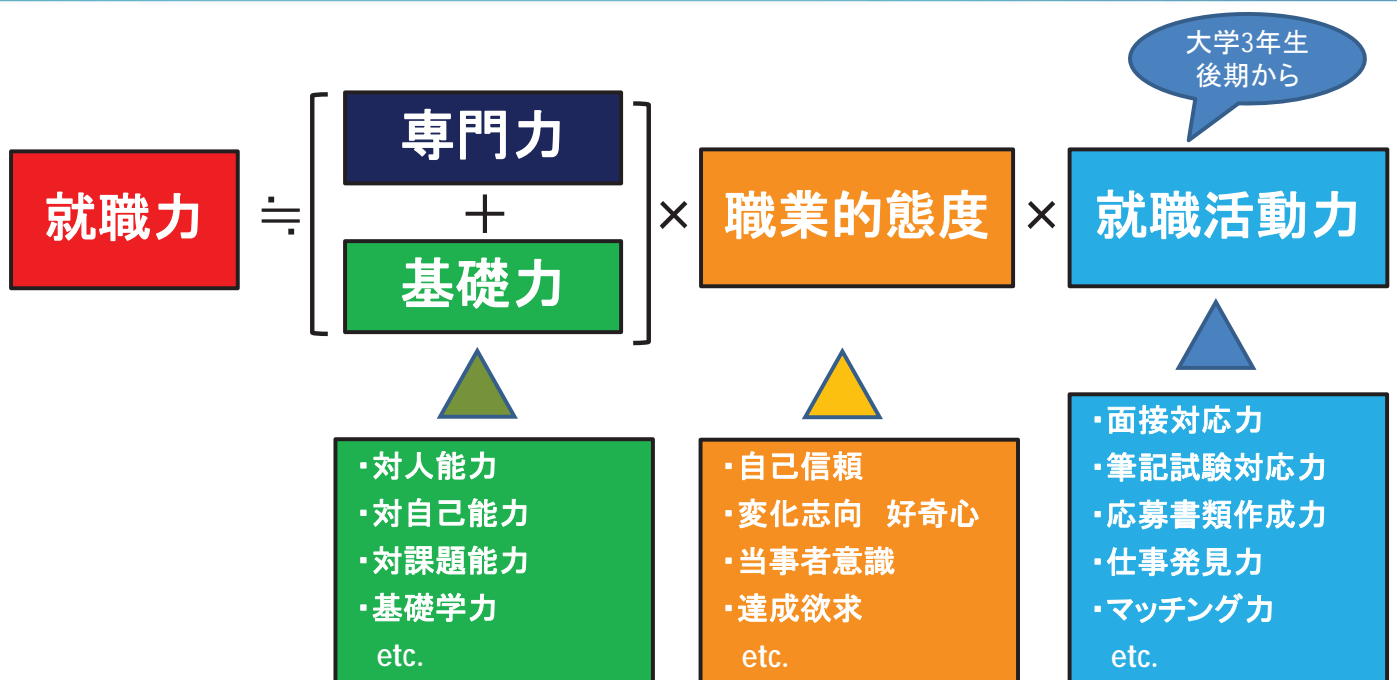
② 社会を知る

仕事研究・環境理解

③ 自分を磨く

学生生活を充実

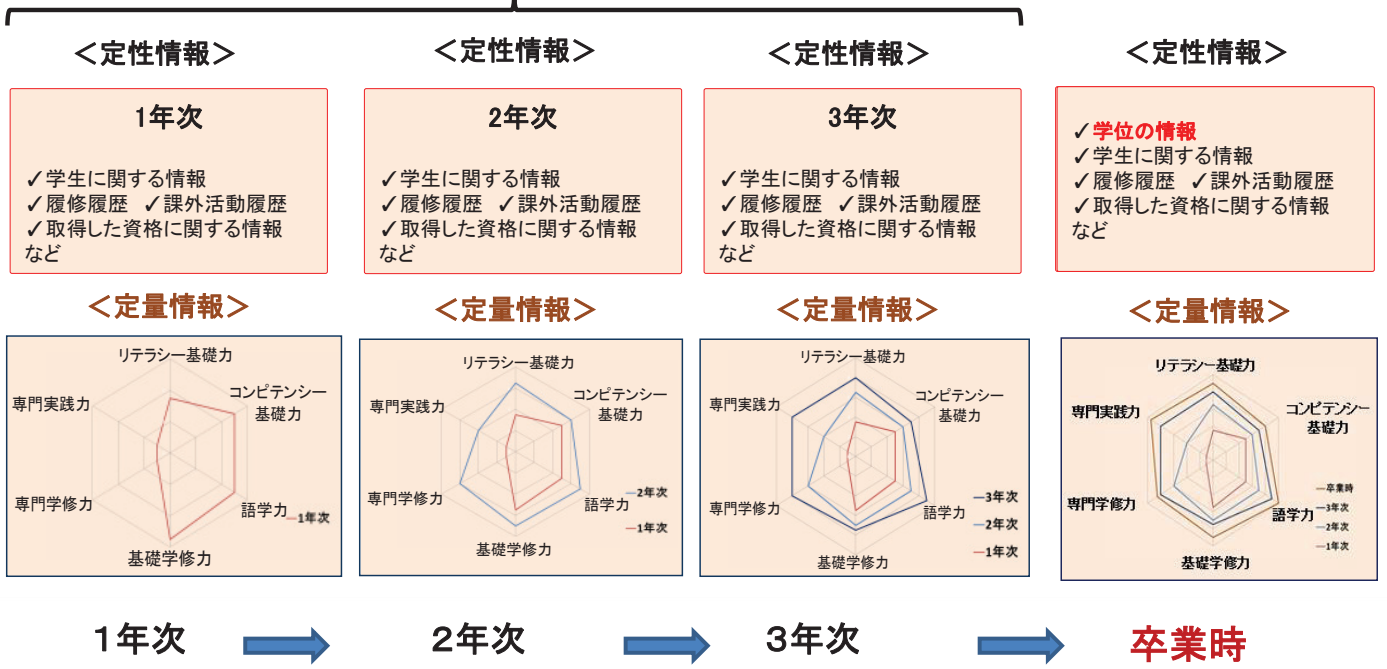
就職力を高めるための式



プレ・ディプロマサプリメント

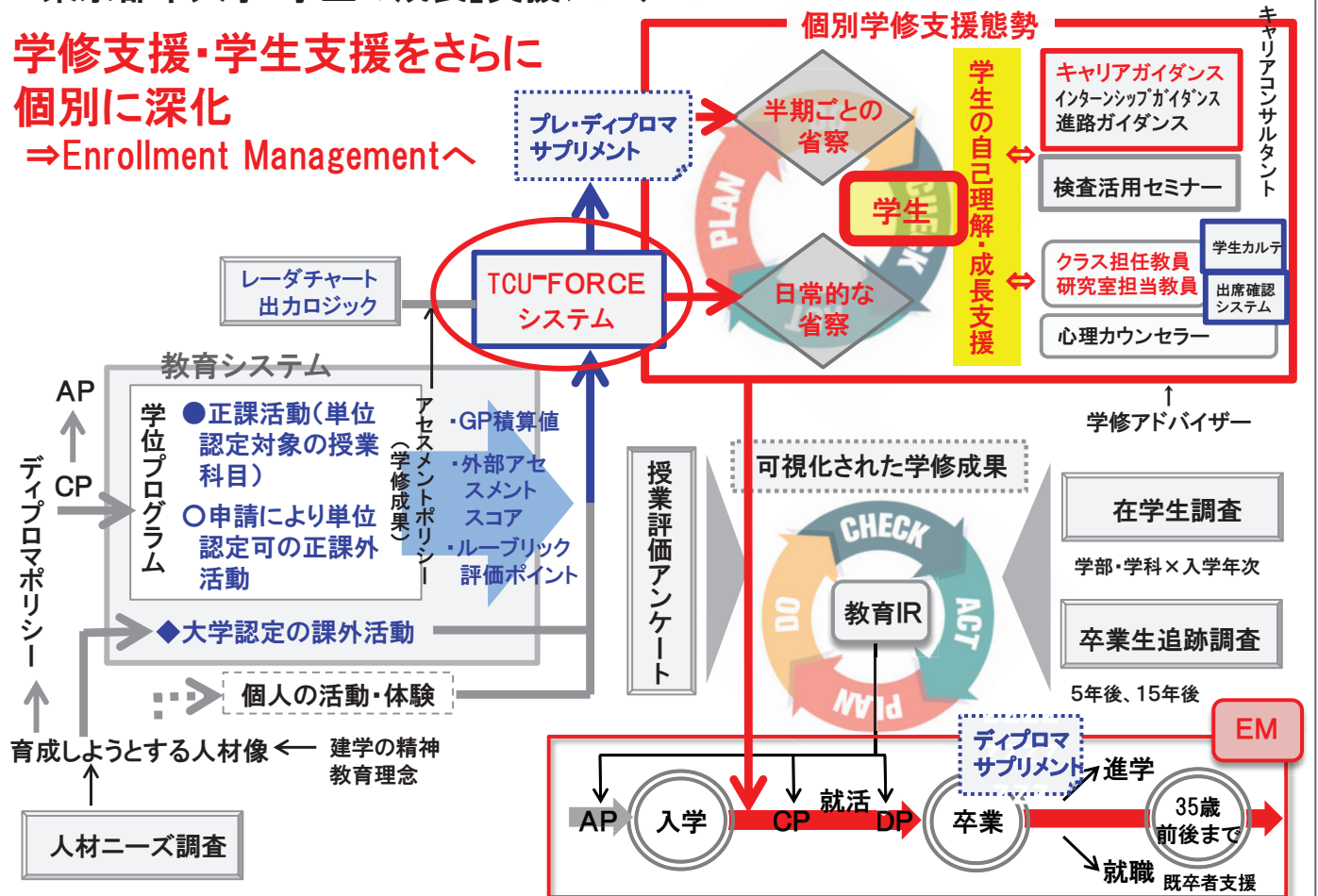
プレ・ディプロマサプリメント

ディプロマサプリメント



東京都市大学「学生の成長」支援システム

学修支援・学生支援をさらに個別に深化
⇒ Enrollment Managementへ



TCU—FORCEシステムとは

学生が正課や正課外などの活動で培った経験を登録していくことで、学生の持つ様々な力を可視化し、教職員の支援を受けながら「自己理解と成長」を促す学修支援システム

「FORCE」 = **FOR** Career **E**nrollment



東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

TCU—FORCEシステムの機能

1年次からその都度、学生自身の情報を確認し、成長度合いを認識できる

- ①レーダーチャートによる**定量**情報の表示
- ②承認されたアピールポイントの**定性**情報の表示
- ③キャリアガイダンスで目標設定⇒振り返り⇒再目標設定
＜PDCAを習慣化＞
- ④キャリアポートフォリオ機能で日々の活動を記録

※④キャリアポートフォリオ機能のみ学生本人だけが閲覧可能、①～③の機能は教職員も閲覧可能

能力指標の定義

No	能力指標	能力の定義
①	リテラシー基礎力 PROGのリテラシー	「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」の4つの要素から構成される、学んだ知識を活用して問題を解決する力を身につけている。また、学び・研究活動のペースとなる、正解のない問題に対して解決に向け、論理的に考える力を身につけている。
②	コンピテンシー基礎力 PROGのコンピテンシー	大きくは「対人基礎力」「対自己基礎力」「対課題基礎力」の3つの要素から構成される、人と自分にベストな状態をもたらす力を身につけている。
③	語学力 語学科目GP積算 語学系外部試験 国際交流体験	国際的視野に立つ幅広い教養と専門性を身につけた上で、それらを的確に表現、伝達し理解を得るためのコミュニケーション能力を身につけている。また、この能力を駆使して必要な協力を得るとともに、協働して活動できる力を身につけている。
④	基礎学修力 選定した科目のGP積算	大学での学びに必要な学修に取り組む態度と基礎的な素養を持つとともに、自ら学ぶための意欲を持っている。また、大学での学びに必要な学修の方法と基礎的知識の活用方法を身につけている。
⑤	専門学修力 選定した科目のGP積算	基礎的な素養を十分に理解した上で、各分野における高度で専門的な知識を理解し修得している。また、自らの専門分野の研究をより深めることにより、自ら課題を発見し、解決する力を身につけている。
⑥	専門実践力 卒業研究GP 選定した科目のGP積算 研究活動	大学で修得した学修成果、研究成果を広く社会、さらには世界に問い、働きかける準備ができています。また、積極的に社会に貢献する姿勢を持ち、社会での実践により、さらに学修、研究の質を高めていく力を身につけている。

学

TOKYO CITY UNIVERSITY

TCU-FORCEシステム概要一覧表

区分	レーダーチャート表示	ユニット	学修成果の評価				学修支援コメント※入力されたものに対して	
			教員への承認依頼	評価項目	入力方法	レーダーチャートポイント換算		
グラフ内訳	①リテラシー基礎力	PROG(リテラシー)	×	PROG(リテラシー)結果	CSV一括投入	PROG結果に基づきポイント換算	○	
	②コンピテンシー基礎力	PROG(コンピテンシー)	×	PROG(コンピテンシー)結果	CSV一括投入	PROG結果に基づきポイント換算	○	
	③語学力	語学系授業GP積算値	△ 学生手入力のみ承認依頼あり	×	語学系授業GP積算値	基幹システム連携	語学系授業GP積算値に基づきポイント換算	○
				○	G-TELP	学生手入力	語学系試験得点に基づきポイント換算	○
					TOEIC	学生手入力		○
					TOEIC-IP	CSV一括投入		○
					TOEFL(iBT)	学生手入力		○
					TOEFL(CBT)	学生手入力		○
					TOEFL(PBT)	学生手入力		○
	英検	学生手入力	○					
IELTS	学生手入力	○						
④基礎学修力	国際交流体験	○	海外での国際交流体験(3か月以上)	学生手入力	10点	○		
			海外での国際交流体験(3か月未満)		5点	○		
			国内での国際交流体験(6か月以上)		5点	○		
⑤専門学修力	基礎学修力系GP積算値	×	基礎学修力授業GP積算値	基幹システム連携	基礎学修力授業GP積算値に基づきポイント換算	○		
⑥専門実践力	卒業研究	×	卒業研究	基幹システム連携	卒業研究の評価に基づきポイント換算	○		
	専門実践力系GP積算値	×	専門実践力授業GP積算値	基幹システム連携	専門実践力授業GP積算値に基づきポイント換算	○		
	研究活動	○	研究活動(学会発表・実習など)	学生手入力	5点	○		
アピール項目	—	アピール項目	○	アピール項目(ボランティア・課外活動・アルバイトなど)	学生手入力	—	○	
ガイダンス	—	目標・省察	×		学生手入力	—	○	
活動記録(日々)	—	日々の活動記録(非公開)	×		学生手入力	—	×	

学生画面(学修活動の申請)

あしあと

年度 **必須** 2017年度

評価ユニット **必須** 語学系試験

件名 **必須** TOEIC

補足

日付 **必須**

得点 **必須** 点

詳細



添付ファイル ファイル選択

**担当教員に承認を求めるエビデンスとなる
報告書や資格証明書などのファイル添付が可能**

キャンセル

入力内容の確認



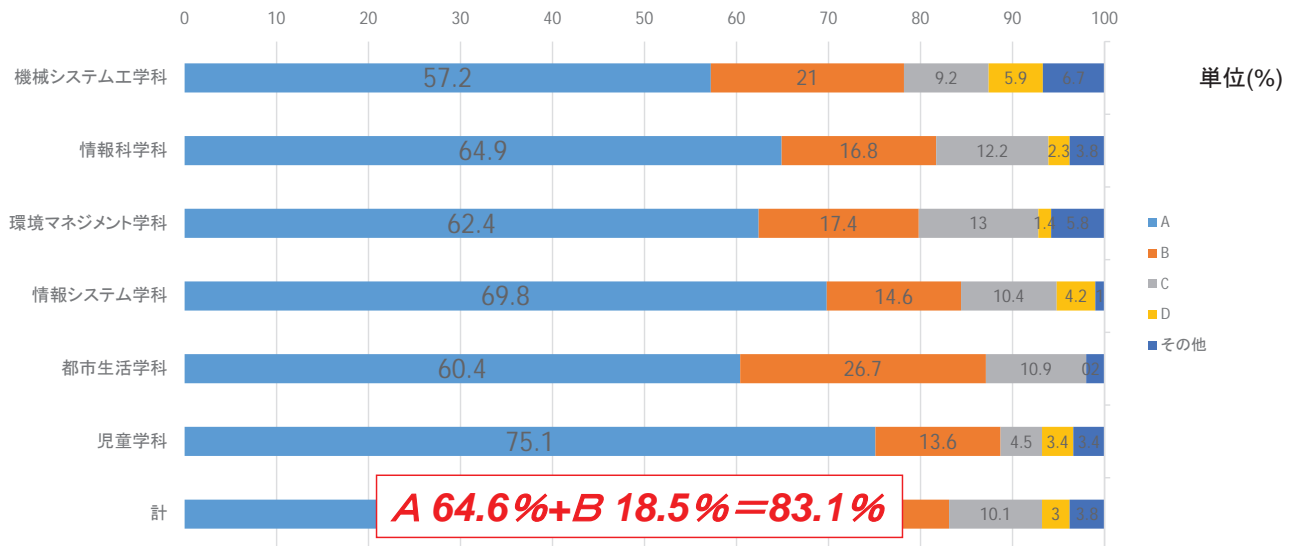
正課教育とそれを補う支援スケジュール

	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業
ガイダンス	①キャリアガイダンス ②キャリアガイダンス	③キャリアガイダンス インターンシップガイダンス ④キャリアガイダンス インターンシップ成果報告会	①進路ガイダンス インターンシップガイダンス ②進路ガイダンス インターンシップ成果報告会 ③進路ガイダンス	企業提出用 プレディプロマサブリメント	ディプロマサブリメント 卒業時発行用
授業・セミナー	正課教育の授業、SD-PBL、事例研究、卒業研究など				就職セミナー
企業研究会					業界・企業研究会 3年次12月～4年次12月
その他	適性検査 検査活用セミナー	適性検査 検査活用セミナー	学修サポート・キャリア相談 適性検査 検査活用セミナー	適性検査	既卒者支援

試行学科1年次向けガイダンス 受講学生のアンケート

今日のガイダンスを受けて、これからの大学での学びや生活に向けてどんな気持ちになりましたか？

- [選択肢] A: 実は不安が大きかったけど、やる気が高まった。やれる気がしてきた。
 B: もともとやる気が高かったけど、もっとやる気が高まった。
 C: 不安があったが、今日の内容を聞いてさらに不安が高まってしまった。
 D: 不安はなかったが、今日の内容を聞いて不安になってきた。



キャリアポートフォリオ機能 学生が日々の活動記録を登録

キャリア形成

キャリア形成において、普段の生活で気づいたこと、実践していること、あなたの性格が現れたエピソードなどを記録していきましょう。エントリーシートやあなたのキャリアを考えるにあたっての情報となります。

3年 2017年度

2017/03/18
目標
 アルバイトの作業マニュアルを覚え、基礎をしっかりと身につけてからより効率的に仕事を進める方法を考え、実践します。

2017/07/25
省察
 目標にしていた作業の基礎は身に付きました。しかし、事務所内での梱包などの作業と店頭での接客業務では、必要になるスキルが異なると....

※教職員は閲覧することができないので、必要によって面談時に学生と一緒に画面を見ながら活動記録を共有する

キーワード検索

添付	日付	内容	詳細
	2017/12/10	接客業の難しさを痛感	接客業の難しさを痛感
	2017/05/13	13歳のハローワークを読んで	
	2017/02/18	企画をするということ	

写真や文書データを記録として残すことが可能

PDF, X, P, etc.

活動記録の登録

学科の担当教員への依頼

学生が自己理解を深め、成長に向けて主体的・自律的に活動することを支援する、身近な存在としての役割

- ex.)
- ・学問・専門の立場からだけでなく、社会で働く先輩として、学生がPDCAをうまく回していくための、気づきやヒントを与えるアドバイザー
 - ・努力や成長を認め、褒め励まし、時に失敗や挫折に共感し、勇気づける、学生から見て頼りになる存在

★具体的にお願いしたいこと

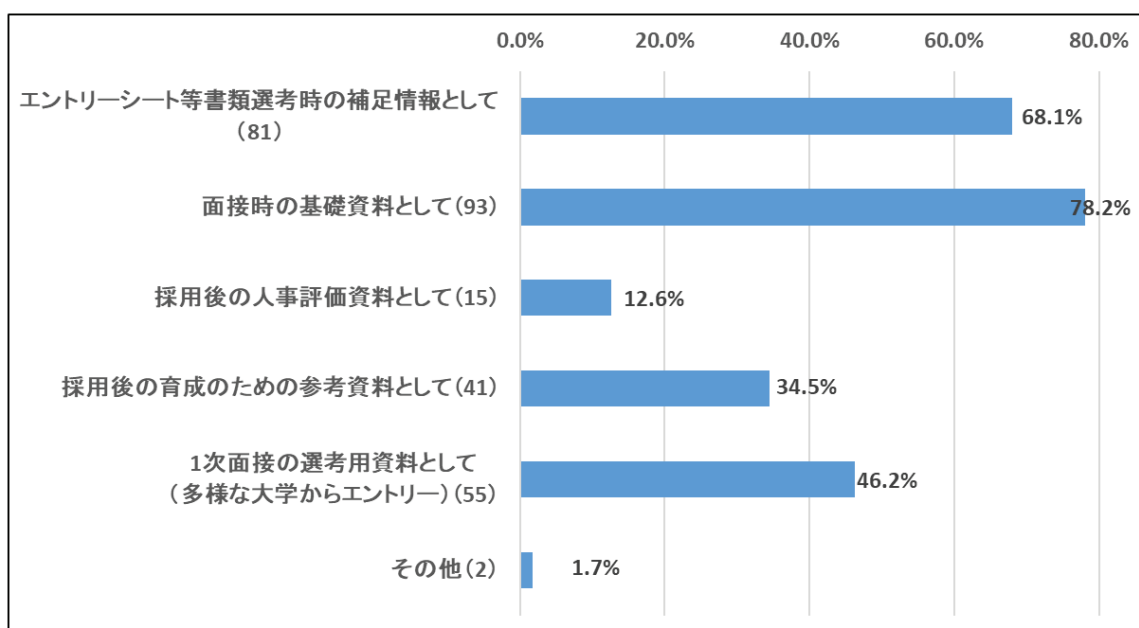
- ① 「TCU-FORCE」での**学生の学修活動の承認やコメント記入**による日常的な応援・アドバイス

※学科として、各学生の承認担当は誰が行うかを決定。担当教員に学生からの承認依頼が来た場合には教員用画面のアイコンとメールでお知らせ

- ② 「TCU-FORCE」などを活用した**個人面談**による学修支援

企業からディプロマ・サプリメントへの期待

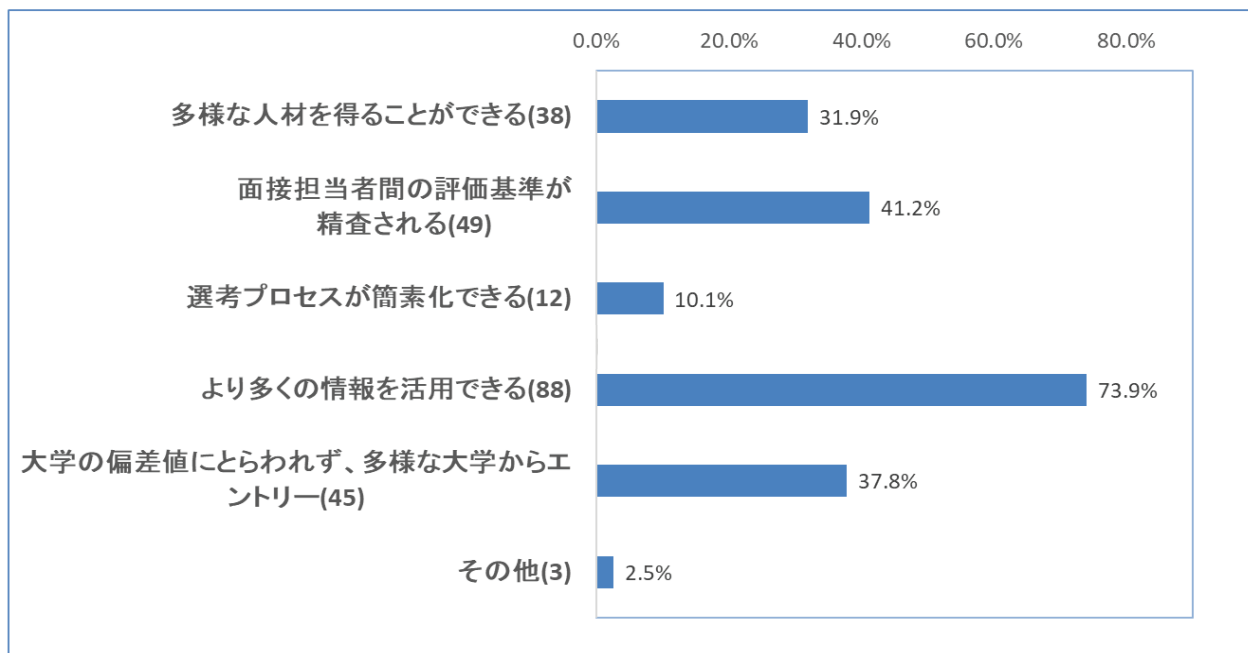
ディプロマ・サプリメントは、どのような場面で有効だと思いますか



・調査期間:平成30年8月10日～8月31日 ・回答社数:119社
・調査対象:平成29年度3月に実施した「求める人材・大学教育ニーズ実態調査」に回答のあった243社の人事担当者へ郵送、並びに本学を訪問された人事担当者

企業からディプロマ・サプリメントへの期待

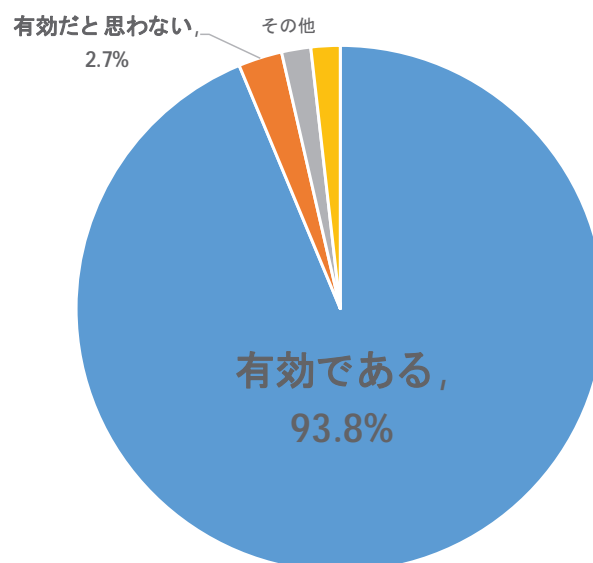
どのような成果が期待されますか。



・調査期間:平成30年8月10日～8月31日 ・回答社数:119社
・調査対象:平成29年度3月に実施した「求める人材・大学教育ニーズ実態調査」に回答のあった243社の人事担当者へ郵送、並びに本学を訪問された人事担当者

企業からディプロマ・サプリメントへの期待

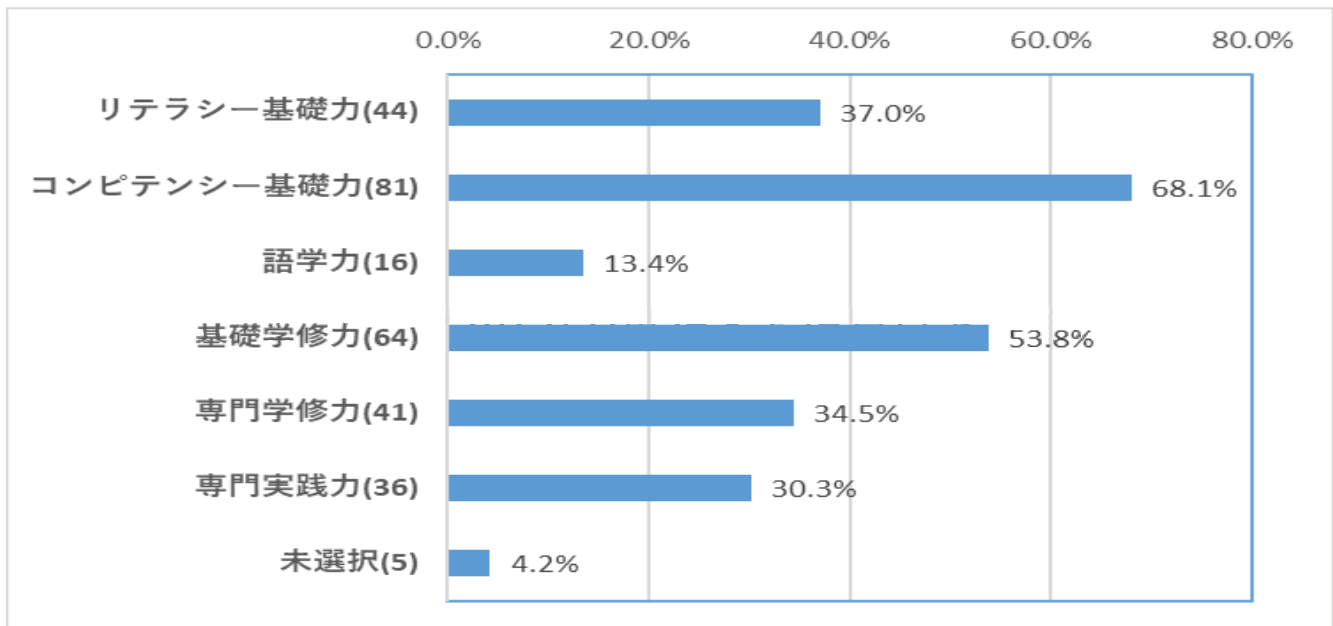
ディプロマ・サプリメントは採用選考で有効だと思われませんか



・調査期間:平成30年8月10日～8月31日 ・回答社数:119社
・調査対象:平成29年度3月に実施した「求める人材・大学教育ニーズ実態調査」に回答のあった243社の人事担当者へ郵送、並びに本学を訪問された人事担当者

企業が重視する6つの力の項目

本学が示す6つの力で重視する項目はありますか？



・調査期間:平成30年8月10日～8月31日 ・回答社数:119社
・調査対象:平成29年度3月に実施した「求める人材・大学教育ニーズ実態調査」に回答のあった243社の人事担当者へ郵送、並びに本学を訪問された人事担当者

企業人事担当からTCU-FORCEへの意見

・履歴書や成績書だけでは隠れて見えてこない部分がわかりやすく表現されていると思います。面談がごく短時間で学生さんのお人柄を見るのが難しいことがあります。参考になる視点が盛り込まれていると思います。

・成績証明書より具体的にその方の知力がわかるのでとても良いと思います。

・所属学科の平均値等データを比較する対象がありますと更に活用が有効になるのではないかと考えております。

・全国的に普及しないと参考程度の資料になってしまいます。
もっと他大学でも取り入れて欲しい。



問題

1. 学生はガイダンス時に入力はするが、日々の活動記録の入力が少ない
2. 教員から学生の入力に対するフィードバックが行われる学科と行われない学科の差が大きい
3. システムの操作性の向上
4. 産業界に対するディプロマ・サプリメントの認知の向上活動が不十分



キャリアコンサルタントの活用

TCU-FORCEの日々の活用を促進する目的で、学科の担当教員による対応に加えて、キャリア支援センターの資源を有効に活用する。

現在、キャリア支援センターには**キャリアコンサルタント国家資格**を保有するスタッフが12名在籍しており、今年度、3学科の大学1年次に対して、キャリアカウンセラーによる**低学年からの個別面談**を通じたキャリアデザイン支援を試行実施する。

